



## 山間農業を支える水稻2品種 — 「中部111号」と「中部糯114号」 —



「中部111号」の試験栽培



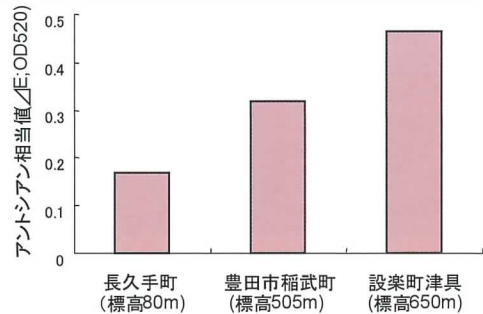
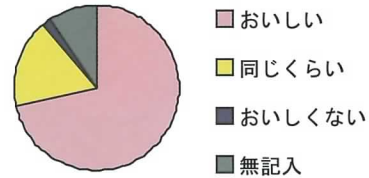
いもち病無防除栽培での  
「中部111号」(左)と「ミネアサヒ」(右)



紫黒糯「中部糯114号」の草姿

「中部111号」の食味アンケート結果  
(回答:242人)

Q: 家庭で食べているお米と比べて・・・



産地標高別の「中部糯114号」の  
アントシアン含量

山間・中山間地域の稲作では、いもち病が大敵で防除のための薬剤散布は必須となっています。開発した「中部111号」は、非常に強い抵抗性を持つため、いもち病の農薬防除を省略できます。このため、中山間のクリーンなイメージを活かしたおいしい減農薬栽培米が生産できます。

「中部糯114号」は、機能性成分の一つでポリフェノールの一種アントシアンを豊富に含む紫黒糯米品種です。中山間地域の冷涼な気候がアントシアン含量を高めます。食品工業技術センターと共同開発した新みりん製造法(特許申請中)を用いた赤色みりん等の加工用原料に好適です。

(山間農業研究所)